



上尾市議会議員〈上尾政策フォーラム〉

えびはら直矢 市政報告

<https://www.ebihara-naoya.com/>

2018年第7号

2018.9.1

発行人 えびはら直矢
上尾市原市北一丁目14番地9
TEL. 048-716-7323



貧困の連鎖を断つ機会を逃した上尾市

学習支援の小学生への拡大

私はこれまで議会での一般質問を通じて、経済的に困難な状況にある子どもたちの学習支援の対象を小学生まで拡大することの必要性を訴えてきました。それは、複数の調査結果で小学生のときから支援を行わなければ家庭環境による学力差の挽回は困難であることが明らかになっているからです。

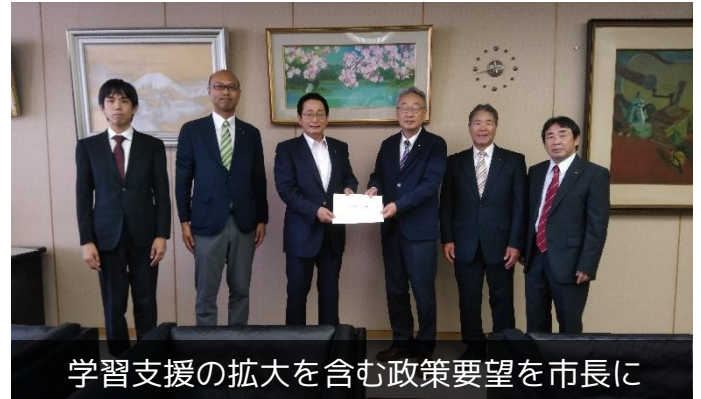
このような問題意識から埼玉県が実施している事業に「ジュニア・アスポート事業」があります。今回、この事業の対象となる自治体の追加募集が行われており、市長をはじめとした市の執行部に対して事業の公募に応じることを訴えましたが、残念ながら上尾市は公募に応じませんでした。

私は、これによって上尾市は、子どもたちの可能性を広げ、貧困の連鎖を断つ極めて重要な機会を逃してしまったと考えています。

市は今回公募に応じなかった理由として学習支援の会場への送迎の問題や食事の提供が困難であることを挙げていますが、事業を実施している他の自治体ではこの事業を受託する事業者がこれらの問題を解決しており、それについてはすでに市にも伝えていました。

市の論理としては他の自治体の実施状況を確認してからはじめれば良いのかもしれませんが、しかし、今事業を開始していれば支援を受けられたはずの子どもたちは、この判断により一つの可能性を奪われてしまいました。

子どもたちに手を差し伸べ、貧困の連鎖が続くことを許さない市政へと歩みを進めるよう、引き続き働きかけていきます。



学習支援の拡大を含む政策要望を市長に



キーワード

ジュニア・アスポート事業

埼玉県が2018年7月よりモデル的にスタートした生活困窮世帯の小学生を対象とした学習支援・生活支援教室。県ではこれまで中高生を対象に学習支援事業を行ってきたが、貧困の連鎖の解消に向け、より早期からの支援を開始した。学習支援に加えて、生活習慣を身につける生活支援や体験活動、食育など、様々なサポートを受けることができる。



データでみる

上尾市の子どもの貧困

日本財団の「貧困状態」の定義に当てはまる子どもは上尾市内に少なくとも2,369人います。



ひとり親家庭の子ども
2,178人

生活保護支給世帯の子ども
191人



※平成30年8月30日現在・0歳から18歳まで



議会中継のホームページでこのテーマについて質問をした内容をご覧いただけます。

<http://smart.discussvision.net/smart/tenant/ageo/WebView/>



Point

なぜ小学生から学習支援が必要なの？

私はかねてより経済的に厳しい家庭やひとり親家庭の子どもを対象とした学習支援の対象を小学生まで拡大することを市に求めています。これは多くの研究で、小学生の段階で学力に差が付き始め、現在上尾市が学習支援を行っている中学生の段階ではその差がすでに挽回が難しくなってしまうことが明らかになっているからです。

子どもたちが生まれた環境によらず自分の望む道を歩むことができるようにする、そして貧困の連鎖を断ち切るために、小学生への学習支援の実施をこれからも訴えていきます。

家庭環境の不利は個人の努力では克服できない

家庭の所得、親の学歴といった社会経済的背景のグループごとの平日の勉強時間と正答率（小6・国語A）

	最も低い	最も高い
3時間以上	58.9%	80.6%
全くしない	43.7%	60.5%



最も低いグループの子どもは最も高い子どもに平日毎日3時間勉強しても追いつけません。
家庭環境の不利は個人の努力では克服が難しいことがわかります。

参考：お茶の水女子大学「平成25年度全国学力・学習状況調査（きめ細かい調査）の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究」



学習支援の小学生への拡大について
皆さまのご意見を聞かせてください



FAX 048-677-1676



メール ebihara116@gmail.com



フェイスブック <https://www.facebook.com/ebihara.naoya12/>



えびはら直矢プロフィール

昭和62年12月3日生まれ。

- 上智大学法学部卒
 - 首都大学東京社会人類学教室修了。
- 国連 UNHCR 協会職員などを経て、大島敦衆議院議員公設第一秘書を務める。

大学在学中に市民団体を設立し、現在も子どもの放課後を考える団体や演劇教育を推進する団体の運営に携わっている。2017年上尾市議会議員に当選。国民民主党所属。
家族：妻、長男、長女、次男